

複合的資源管理型漁業促進対策事業調査

イカナゴ（津軽海峡）

（抄 録）

伊 藤 欣 吾

産卵状況調査

今別町、平館村および佐井村沿岸域において、1998年10月22日～1999年3月16日に、定置網、タモ網およびビームトロールでイカナゴを合計603個体採集し生物測定した。G S I（生殖腺熟度指数）の推移と産卵終了個体の出現状況から、1999年の産卵は1月下旬の短期間に集中的に行われたと推定された。ただし、3月中旬に佐井村沿岸域に別の小規模な産卵群が突如として出現した。

稚仔分布調査

津軽海峡西部～陸奥湾湾口域において1999年2～4月に毎月1回、新型稚魚ネットの水平曳を行いイカナゴ稚仔を採集した。1995～1998年においてはイカナゴ稚仔の分布密度と加入資源とは正の相関関係にあると推測された。しかし、1999年は稚仔分布密度が前年の4.8倍であったのに対し、漁獲量は前年の1.4倍にとどまった。

漁獲量調査

陸奥湾湾口海域の7漁業協同組合における1999年のイカナゴの漁獲量（生換算重量）は1,807トンで前年比144%に増加し、漁獲金額は3億5,818万円で前年比174%に増加した。特に佐井村漁協の増加が著しかった。また、5月前半の出荷量が過去3カ年に比べ少なかったことが特徴的であった。

標本船調査

陸奥湾湾口海域においてイカナゴ漁26隻の標本船調査を行った。1999年のイカナゴ漁場は過去2カ年と同様に、今別町沿岸で始まり徐々に津軽半島側で拡大し、その後下北半島側に移動した。ただし、下北半島の漁場形成が例年より半月ほど遅れた。1999年の漁獲対象サイズの成長速度は0.74mm／日と推定され、過去2カ年と比較し遅かった。各漁協とも同一の発生群を漁獲していたと推定された。

海洋環境

1999年の陸奥湾湾口海域における海面水温は、2月下旬から4月中旬までは5～7℃に低下し、平年差-1～-3℃と極めて低かった。ただし、底層水温は7℃以下になることはなかった。

夏眠分布調査

1999年9月15日、10月6～7日に大畑町沖と佐井村沖の8地点において、オッタートロールの海底15～30分曳を行った。8地点中4地点で15個体のイカナゴを採集した。イカナゴの体長は135～203mmであった。1998年に同調査海域においてビームトロールによる海底曳を行ったが、採集されたイカナゴは9地点で222個体と今回の調査より遥かに多かった。イカナゴを採集する漁具としてオッタートロールが適しているかどうか検討する必要がある。